

## 学校経営推進費評価報告書（1年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立長野北高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	①学校教育自己診断での生徒の授業満足度、進路指導充実度の向上 ②希望進路決定率の向上 ③外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	長野北～体験し、考え、自己肯定感を高める授業の創造！～

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 自己肯定感を高める。 (1) 授業改善を積極的に推進し、生徒の基礎学力を向上することにより、達成感を高める。 ア 生徒が社会において必要とされる力について認識し、小・中学校でのつまずきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てるため、「分かる授業」・「楽しい授業」を実現する。 ウ 公開授業や研究授業などの授業研究についての取組みを積極的に展開し、授業アンケートの結果を分析し、生徒が自発的・主体的に学べるための授業を推進し、授業力の向上を図る。 エ 全教室にプロジェクターを配置するなど、学習環境の充実を図るとともに、ICT 機器の有効な活用方法を研究し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。 2 多様な進路希望をもつ生徒の希望進路を実現する。 (1) 進路実現に向けて、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。 (2) 進路指導計画を整理・拡充し計画的な進路指導を実現する。 イ 資格試験などに積極的に取り組む中で、社会において必要とされる力を認識するとともに自ら獲得できる生徒を育む。 ※就職希望者の決定率 100%をめざす。
事業目標	ICT の活用や実験・実習などを通じて、生徒が主体的に体験し、考えることによる「分かる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒が積極的に物事に取り組み自らの個性を伸ばすことにより、自己肯定感を高める。また、自らの個性を理解し将来について考えることのできる生徒を育て、希望進路の実現を図る。 ① 授業研究 PT を中心に、生徒が主体的に体験し、考える授業に向けて、「ICT 活用授業」をはじめ、授業研究の成果を校内で共有できるシステムの構築を図る。 ② 大学進学希望者に向けて図書室に自習スペースを設置し、ICT を活用した「学びの場」を設定する。 ③ 就職志望者に向けて、企業の情報や自らの適正について検索できるシステムを構築する。 以上により、授業アンケート及び学校教育自己診断の「授業（ICT 活用を含む）」および「進路指導」に関する設問の満足度をすべてにおいて3年間で80%以上にす。関西私立中堅大学への進学者を5名以上、学校斡旋による就職内定を100%にする。また、進路未決定者を0にする。
整備した 設備・物品 (数量)	Apple iPad+ケース 42 台 タブレットスタンド 18 台 無線 LAN アクセスポイント 18 台 カラーレーザープリンター 1 台 収納保管庫 (21 台収納) 2 台

<b>取組みの 主担 ・実施者</b>	<p>主 担：授業研究 PT（パッケージ研修、ICT 活用研究、授業公開月間などを担当） 取組みの実施者： 全教員</p>
<b>本年度の 取組内容</b>	<p>本事業での物品が納入される前に、以下の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全教室短焦点プロジェクター+Apple TV（前年度）、ホワイトボード、無線 LAN、タブレットスタンド</li> <li>• 全教員 iPad+ケース</li> <li>• 全生徒 classi の契約</li> <li>• 共用 iBook、カラーレーザープリンター</li> </ul> <p>本事業での物品の納入が 12 月となったので、納入後すぐに使用できるように、環境を整えた。納入後、すぐに生徒用に使用できるようにセッティングを完了し、授業研究 PT 対象の研修を経て、活用法など検討し、2 学期末に教員を対象として模擬授業を行った。また、1 月には、パッケージ研修として研究授業を実施。研究協議を実施した。教員から、今後の活用に向けて、提案や要望などが多く出され、以降の事業展開への参考となるとともに、教員の意識も高まった。</p> <p>他府県への視察を行うなど、引き続き、授業研究 PT で活用法を研究し、教員対象の活用法に関する説明会（研修）5 回実施。生徒のスマートフォンを活用する（BYOD）を含めて、ICT を授業で活用する教員は大幅に増加し、ほぼ、毎日、iPad は授業で使われている。</p> <p>また、教材作成などにカラーレーザープリンターが活用されているが、今後は、大判プリンターを含めて生徒の発表等へ活用する研究を継続して行う予定である。</p>
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	<p>（授業アンケート・学校教育自己診断）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「DVD などの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」項目 65%以上（H29 年度 44%）</li> <li>• 「授業では、実験や実習をしたり、発表したりする機会がたくさんある」項目 65%以上（H29 年度 51%）</li> <li>• 「授業が分かりやすく楽しい」項目 65%以上（H29 年度 49%）</li> <li>• 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」項目 80%以上（H29 年度 58%）</li> <li>• （進路実績・学力診断テスト）</li> <li>• 中堅私立大学受験者 5 名学校斡旋就職内定者 90%基礎力診断テスト学年評価「C3」</li> </ul>
<b>自己評価</b>	<p>（授業アンケート・学校教育自己診断）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「DVD などの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」項目 65%以上（H29 年度 44%）…………… 74%（○）</li> <li>• 「授業では、実験や実習をしたり、発表の機会がたくさんある」項目 65%以上（H29 年度 51%）…………… 58%（△）</li> <li>• 「授業が分かりやすく楽しい」項目 65%以上（H29 年度 49%）…………… 53%（△）</li> <li>• 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」項目 80%以上（H29 年度 58%）…………… 74%（△）</li> <li>• （進路実績・学力診断テスト）</li> <li>• 中堅私立大学受験者 5 名…………… 3 名（近畿×2、桃山学院）（△）</li> <li>• 学校斡旋就職内定者 90%…………… 95.1%（○）</li> <li>• 基礎力診断テスト学年評価「C3」…………… 1 年 D3+、2 年 D3+（△）</li> </ul>
<b>次年度に向けて</b>	<p>授業アンケート・学校教育自己診断の項目において、評価指標に到達したのは「教材活用」のみであったが、全ての項目において昨年度の数値は上回っている。アンケート等は、12 月に実施したが、その時点で、生徒用の iPad 等の物品は納入されておらず、数値の上昇は、本校が事前に投入した、教員用 iPad、短焦点プロジェクター等による効果であると考えられる。現在は、授業での生徒の活用も飛躍的に増加しており、次年度にはさらに結果が上昇すると考えられる。</p>

進路実績・学力診断テストにおいても、全項と同様に本事業での成果は反映されていないが、中堅私立大学受験者は、昨年度の0名から3名と増加し、近畿大学（農学部・理工学部）、大阪産業大学などの合格者を出している。

次年度は、「授業研究 PT」を「学力向上 PT」へ改編し、本校で整備した環境と本事業での整備した環境（ハード・ソフトを含む）について教科・分掌を横断的に見渡し、効果的に活用できるように企画・立案から研修等の実施までを統括する。

本年度、目標に達しなかったアンケート等の項目も、昨年度の値をそれぞれ7pt、4pt、16pt上昇しており、誤差の範囲を超えて、本校での取り組みの成果と考える。次年度には、本事業で整備された物品を使って事業が行えることから、さらなる上昇が十分に期待できる。進学に関する項目で目標に到達できなかったが、次年度は、整備した物品を活用しながら、学習支援クラウドサービスを活用して生徒の到達度に合わせた学習ができるよう企画している。これらにより、意欲のある生徒を大学等へもチャレンジさせたい。さらに、学力向上 PT では、基本的な生活習慣・遅刻の減少などに対応を行いながら基礎学力の向上を図る。授業規律の確立により「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、基礎力診断テストの結果を踏まえて個々に合った指導を行うことで、上位層を伸ばすとともに、全体的な底上げもできると考えている。